

第7号

巻頭言

宮本 久雄

アウグスティヌスの聖書解釈をめぐる

——『神の国』からの視点——

加藤 信朗

淵が淵を呼ぶ

——『告白』一三・一三・一四——

荒井 洋一

真理観の転回

——アウグスティヌス懐疑論批判の射程——

岡部由紀子

存在の現成のダイナミズム

——受肉・神人性の教理と愛智との関わり——

谷 隆一郎

The Neoplatonic Theme of Return in Eriugena

Édouard Jeuneau

第4号

- 卷頭言 今道 友信
- 「語りえぬ者」について
—フィロンとユスティノス— 柴田 有
- オリゲネスのヨハネ福音書序文（ロゴス賛歌）の解釈
—他のギリシア教父の解釈と比較しつつ— 小高 毅
- オリゲネスにおける解釈学的原理
—『原理論』と『ヨハネによる福音書注解』から— 久山 道彦
- 「ギリシア人の剽窃」に関する
アレクサンドリアのクレメンスの見解 久山 宗彦

第5号

- 卷頭言 加藤 武
- διαλεκτική* と *λογική*
—Ammonios Hermeiou, In De Interpretatione,
Prolegomena— 水落 健治
- テルトゥリアヌスの結婚観 木寺 廉太
- 悪を選択する自由 岡野 昌雄
- Augustine's Roman Empire:
Reaching out from Hippo Regius Neil B. Mclynn

第6号

- 卷頭言 受容としての教父研究 柴田 有
- 古代の二人の歴史記述家：ヨセフスとエウセビオス
—古さをめぐる歴史記述について— 秦 剛平
- エイレナイオスの聖霊論 塩谷 惇子
- エペクタシスの道行き 宮本 久雄
- Augustine the Bishop in the Light of New Documents

Peter BROWN

パトリスティカ既刊号目次

創刊号

- 巻頭言 加藤 信朗
隠喩の生成—Ambrosius, *Hymnus* I から
Prudentius, *Liber Cathemerinon* I へ— 加藤 武
トマス・アクィナスにおける摂理と人間の自由
—『真理論』第二問、第十二項— 渡部 菊郎
フィロンの聖書解釈の一側面 野町 啓
アレクサンドリアのクレメンスにおける古典学の変容
—『オデュッセイア』の解釈に向けて— 秋山 学

第2号

- 巻頭言 泉 治典
アルクイヌスとフレデギス
—文法学・論理学・神学をめぐって— 清水 哲郎
ディオニシオス・アレオパギテース『神名論』における
新プラトン派的言語とキリスト教的言語
—『神名論』第二章を中心に— 熊田陽一郎
教父研究の現在 今道 友信
〈始まり〉の問いとその行方
—「ヘクサメロン」の西と東— 荻野 弘之

第3号

- 巻頭言 K・リーゼンフーバー
ことばと真理 —アウグスティヌス『教師論』における問題の所在— 中川 純男
アレイオスとアレイオス主義再考 泉 治典
ニケアとの出会い—ヒラリウス『三位一体論』と信仰— 出村 和彦
My Life-long Adventure with Saint Athanasius
Charles Kannengiesser